

JCMA 報告

CONEX KOREA 2007 JCMA 出展報告

業務部

目的：CONEX KOREA 2007 展示会（2007年9月6日（木）－10日（月）5日間）にJCMAがブースを設け、JCMA・施工技術総合研究所の紹介を行った。

1. 開催概要

主催者：KOCEMA（韓国建設機械工業会）
 開催期間：2007年9月6日－10日
 会場：KINTEX（韓国国際展示会センター）
 会場面積：21,400m²（屋内展示のみ）
 出展者：183社（国内107社 海外76社 内：日本 21社）

2. 特記事項

今回は2年前と比べ、出展者数で約35%の増加となり、主催者であるKOCEMAは展示会の成功を表明していた。

日本製品に関しては様変わりで、前回（2005年）には全く展示が見られなかった日本メーカーが軒並み出展をしており、韓国市場へ対する各メーカーの意気込みが感じられた。

今回初めて出展したメーカーは、コマツ、日立、久保田、IHI、KOBELCO等があり、その他部品メーカーも含むと21社が参加していた（現地代理店参加も含む）。

ヤンマーは前回にも出展していたが、日本勢の攻勢に気を引き締めているのが印象的であった。

機体メーカーは、各社とも主要戦力商品はミニショベルで、今後韓国での市場開拓に焦点を当てている。



日立建機



コマツ



久保田

一方コマツ、日立は中型ショベル、ローダの展示も行っており、これらはこれから本格参入をするとのこと。（参考：日本出展社一覧 --- 大和機工、日立建機、北越工業、IHI、JCMA、常磐製作所、神崎高級工機製作所、川崎重工、KOBELCO、コマツ、久保田、三



KOBELCO



IHI



諸岡

菱CATフォーク、三菱重工、諸岡、岡田研磨、大久保歯車、酒井重工、神鋼電機、住友精密工業、タダノ、ヤンマー)

従来は韓国メーカーの独壇場であったものが、このところの財閥解体、排ガス規制等で日本勢が最新型を投入して来ることで、韓国各社は苦しい戦いが始まるといわれている。

また、韓国政府の中古車輸入の規制が厳しくなったことも、新車販売に拍車をかけていると言われていた。

ただ、韓国製との販売価格差は大きく、日本勢としては、この差を性能、機能、サービスなどでどこまでユーザのニーズをつかむ事ができるかが要となろう。

この為日本メーカー各社は、代理店の強化、新規契約などを進めており、コマツはJUNJIN、日立はSOOSANと組むなど、大手代理店との契約が目立つ。これらの動きは全てここ2年間で行なわれていて、各社の韓国市場への注目度が高まっていることを示すものである。

一方韓国メーカーは、今後日本メーカーの競争に巻き込まれていくことになるが、先進技術での遅れ、また従来あった財閥の支援が無くなること等から、生き残りが厳しい状況に立たされることになるだろう。将来、改めて日本メーカーとの協力関係が再構築されるかも知れない。

3. プレゼンテーション

海外展示会主催者（CONEXPO, INTERMAT, M&T EXPO, BAUMA CHINA）は、出展者向けプレゼンテーションを行い宣伝に努めていた。

建機工も日本の経済状況、建設機械市場についてのプレゼンを行なった（これに先立ち、徳永常務から建機工の概要説明が行われた）。会場は約50名程度でほぼ満席で、質問も活発に行われ、日本への関心が高いことを示していた。

4. その他

前回同様に今回も屋内展示のみであり、出展者からは、やはり屋外での実演が欲しいとの声も聞かれた。

JCMA

（文責：JCMA 業務部 国際業務担当部長 天野 裕一）